

## 事後評価シート

調査研究課題名	国土交通行政に資するビッグデータの活用に関する調査研究
担 当 者	主任研究官 上田章紘 研究官 磯山啓明
① 当初目標と目標達成度	<p>ICT 技術の進化等により、ビッグデータと呼ばれる多様で膨大なデジタルデータが生成・流通・蓄積されており、この膨大なデータの中から、有意な情報を抽出し、新たな価値等の創出を図ろうとする取組が各分野で進められている。情報が戦略的資源としてより一層重要視されることが予想される中、今後の国土交通行政にとって必要な知見の獲得を図ったものである。</p> <p>本調査研究では、データ利活用により社会厚生を増大を図ることのできる事例を示し、そのような事例を今後も多く創出するための枠組についても検証を行った。加えて、アンケート・ヒアリング・海外動向調査を行い、情報利活用による産業の競争力強化を促すための方策等についての知見も整理・分析し、提言として纏めることにより、当初の目標を達成できたものと考えている。</p>
② 調査研究内容の妥当性	<p>国土交通省の重点施策においても、ビッグデータの活用は、防災や交通、インフラ管理等の分野を中心に検討されてきた。データをめぐる社会環境は大きく変容を遂げており、今後、社会全体が情報を戦略的資源として捉え直すことが予想される中、民間におけるビッグデータの活用の実態を把握し、今後の行政としての施策立案に資する知見の獲得を図る調査研究には妥当性がある。</p>
③ 調査研究の仕組みの妥当性	<p>随時、省内関係部局、関係団体・企業、有識者等から、調査研究の進め方、調査内容の妥当性やまとめ方について助言をいただきながら、調査研究を進めた。</p>
④ 成果と活用	<p>研究成果を当研究所のホームページで広く公表することを予定している。今後のビッグデータを活用した政策立案や取組み検討に当たって有益な情報を提供し得るものである。</p>
⑤ その他	<p>調査研究内容を PRI Review 54 号・58 号・61 号に掲載するとともに、平成 27 年 5 月・平成 28 年 5 月に開催された国土交通政策研究所研究発表会で報告した。</p>